平成２９年度

社会福祉法人新の会
事　業　報　告

社会福祉法人新の会

Ⅰ　法人本部

第１　総括

平成２９年４月より、社会福祉法人制度改革が実施された。目的は公益性・非営利性を確保する観点から制度を見直し、国民に対する説明責任を果たし、地域社会に貢献する法人の在り方を徹底することである。内容としては、経営組織のガバナンスの強化、事業運営の透明性の向上、財務規律の強化、地域における公益的な取組を実施する責務、行政の関与の在り方である。当法人でも、定款変更、評議員選任解任委員会の設置、理事会及び評議員会の実施方法の変更、社会福祉充実残額の算定、フードドライブへの参加等で社会福祉法人改革に対応した。

昨年度の後半は２人しかいなかった管理職だったが、平成２９年４月に、はあと・ふる・えりあ及びトライアングル・フルハウス・ハミングに新しく施設長を迎え入れ、スタートすることができた。

懸案事項であったフルハウスの消防法改正に対する対応は、最終的に、消防署より「スプリンクラーと自動火災報知機の設置の必要はない。」との回答を得たので、特別に措置する必要はなくなった。他方、ケアホームほっとわんについては、設置義務が発生したため、スプリンクラー及び自動火災報知設備を設置することとなった。これらを解決することにより、必要な設備を整え、また、事業の支出を一部抑えることができた。

昨年度１１月の理事長重任については、登記所への登録が遅れたが、本年度７月に司法書士に依頼し、登録が完了した。

ケアホームほっとわんのサービス管理責任者が不在のため、昨年度１０月からの減算が本年度も続いた。平成３０年度５月実績分から減算は無くなる予定である。

平成２８年度の決算では、人材確保が難しく約６００万円のプラスは出たが、本年度の決算では利用者の長期欠勤が何人か出たり、1月末の大雪で営業活動が鈍ったり、２月のインフルエンザの蔓延で出勤者が大幅に減少したりして、予定した収入が得られず、約７００万円のマイナスとなった。

第２　目標への取組状況

１　法人運営及び組織力の強化

昨年度同様、社会福祉法人改革への対応を求められた年であったが、事業所間の連携及び理事、監事、評議員の大きな協力を得ることができ、特に問題なく対応することができた。組織力の強化という点では、新たにはあと・ふる・えりあ及びトライアングル・フルハウス・ハミングに新施設長が着任したことによって大きく強化された。

２　支援力の向上

各事業所における日々の実践を通して、職員一人ひとりの知識・技術の向上を図ることができた。

また、新規職員入職の際には継続して、必ず「倫理綱領」「虐待防止マニュアル」

「利用者支援ガイドライン」の３つについての研修を実施した。

３　職員の定着化

「働きやすい職場」「働きがいのある職場」を目指し、業務の明確化や職員処遇の向上を図ってきた。職員が主体的に資格取得に取り組むことができるよう、「社会福祉士」「介護福祉士」「精神保健福祉士」の資格を目指す場合の費用の補助や、合格した場合の報奨金制度を作り、資格取得を奨励した。

職員処遇の向上という面では、新しく人事考課制度を取り入れ、評価ポイントを公開し職員の働き方によって評価がアップし、それをベースアップに反映するようにした。

４　事業経営の安定と継続

年度当初に、全職員の面談を行い、職員の要望を経営に取り入れられるように努めた。また、年度末の人事考課に伴う正規職員からの聞き取りを通して、すぐに改善に向けた話し合いを実施し、また、長期的な展望を示すことによって見通しを持った働き方ができるようになった。

第３　実績報告

１　理事会及び評議員会の開催状況

平成２９年度は理事会を５回、評議員会を３回開催した。

第１回理事会	１　開催日　平成２９年５月３０日（火） ２　出席者 ⑴ 理　事（定数６人、総数６人） 出席　　６人 欠席　　０人 ⑵ 監　事（定数２人、総数２人） 出席　　２人（うち１名、都合により午後７時途中退席） 欠席　　０人 ３　議事 ⑴ 報告事項 東京都福祉保健財団借入金　繰上償還について ケアホームほっとわん　消防用設備設置及び修繕積立金の支出について フルハウスの消防法令改正に伴う対応について ⑵ 審議議案 議案第１号　平成２８年度社会福祉法人新の会事業報告の承認について 議案第２号　平成２８年度社会福祉法人新の会決算報告の承認について 議案第３号　平成２９年度社会福祉法人新の会定時評議員会に報告する 平成２８年度新の会事業報告について

	議案第４号　平成２９年度社会福祉法人新の会定時評議員会に報告する平成２８年度新の会決算報告について 議案第５号　平成２９年度社会福祉法人新の会定時評議員会の日時及び場所について 議案第６号　任期満了に伴う平成２９年度社会福祉法人新の会定時評議委員会に提案する理事候補者について 議案第７号　任期満了に伴う平成２９年度社会福祉法人新の会定時評議員会に提案する理事候補者について 議案第８号　任期満了に伴う平成２９年度社会福祉法人新の会定時評議員会に提案する理事候補者について 議案第９号　任期満了に伴う平成２９年度社会福祉法人新の会定時評議員会に提案する理事候補者について 議案第10号　任期満了に伴う平成２９年度社会福祉法人新の会定時評議員会に提案する理事候補者について 議案第11号　任期満了に伴う平成２９年度社会福祉法人新の会定時評議員会に提案する理事候補者について 議案第12号　任期満了に伴う平成２９年度社会福祉法人新の会定時評議員会に提案する監事候補者について 議案第13号　任期満了に伴う平成２９年度社会福祉法人新の会定時評議員会に提案する監事候補者について 議案第14号　任期満了に伴う平成２９年度社会福祉法人新の会定時評議員会に提案する社会福祉法人新の会役員及び評議員の報酬に関する規定案について 議案第15号　社会福祉法人新の会給与規程の一部改正について 議案第16号　平成２９年度夏季賞与の総原資の決定について 議案第17号　社会福祉法人新の会嘱託職員就業規則の一部改正について 上記議案を審議し、議案はいずれも原案のとおり議決した。
定時評議員会	１　開催日　平成２９年６月２７日（火） ２　出席者 ⑴ 評議員（定数８人、総数８人） 出席　　７人 欠席　　１人 ⑵ 監　事（定数２人、総数２人） 出席　　２人

	欠席　　０人 ３　議事 ⑴　報告事項 社会福祉法人新の会定款細則について 平成２８年度社会福祉法人新の会事業報告について 東京都福祉保健財団借入金　繰上償還について ケアホームほっとわん　消防用設備設置及び修繕積立金の支出について フルハウスの消防法令改正に伴う対応について ⑵　審議議案 議案第１号　平成２８年度社会福祉法人新の会決算報告の承認について 議案第２号　任期満了に伴う社会福祉法人新の会理事の選任について 議案第３号　任期満了に伴う社会福祉法人新の会理事の選任について 議案第４号　任期満了に伴う社会福祉法人新の会理事の選任について 議案第５号　任期満了に伴う社会福祉法人新の会理事の選任について 議案第６号　任期満了に伴う社会福祉法人新の会理事の選任について 議案第７号　任期満了に伴う社会福祉法人新の会理事の選任について 議案第８号　任期満了に伴う社会福祉法人新の会監事の選任について 議案第９号　任期満了に伴う社会福祉法人新の会監事の選任について 議案第10号　社会福祉法人新の会役員及び評議員の報酬に関する規程について 上記議案を審議し、議案はいずれも原案のとおり議決した。
第２回理事会	１　開催日　平成２９年６月２７日（火） ２　出席者 ⑴ 理　事（定数６人、総数６人） 出席　　６人 欠席　　０人 ⑵ 監　事（定数２人、総数２人） 出席　　２人 欠席　　０人 ３　議事 ⑴　報告事項 社会福祉法人新の会役員及び評議員の報酬に関する規程について 社会福祉法人新の会定款細則の別表２及び別表３について ⑵　審議議案

	議案第18号　社会福祉法人新の会理事長の選任について 議案第19号　社会福祉法人新の会職務権限の委任等に関する規程の廃止について 「議案第19号　社会福祉法人新の会職務権限の委任等に関する規程の廃止について」は動議となり、審議事項となった。議案第19号を含めた上記の議案はすべて原案のとおり議決した。
第３回理事会	１　開催日　平成２９年９月２６日（火） ２　出席者 ⑴　理　事（定数６人、総数６人） 出席　　６人 欠席　　０人 ⑵　監　事（定数２人、総数２人） 出席　　１人 欠席　　１人 ３　議事 ⑴　報告事項 ⑵　審議議案 議案第20号　社会福祉法人新の会非常勤、パートタイマー就業規則の一部改正について 議案第21号　社会福祉法人新の会トライアングル・フルハウス・ハミング登録ヘルパー給与規程の一部改正について 議案第22号　社会福祉法人新の会人事考課制度実施要綱の廃止について 上記議案を審議し、議案はいずれも原案のとおり議決した。
第４回理事会	１　開催日　平成２９年１１月１４日（火） ２　出席者 ⑴　理　事（定数６人、総数６人） 出席　　５人 欠席　　１人 ⑵　監　事（定数２人、総数２人） 出席　　１人 欠席　　１人 ３　議事

	⑴　報告事項 理事長の職務執行状況報告について ⑵　審議議案 議案第23号　平成２９年度社会福祉法人新の会臨時評議員会の日時及び場所について 議案第24号　平成２９年度臨時評議員会に提案する社会福祉法人新の会定款の一部改正について 議案第25号　平成２９年度冬季賞与の総原資の決定について 議案第26号　社会福祉法人新の会個人情報保護規程の全部改正について 上記議案を審議し、議案はいずれも原案のとおり議決した。
臨時評議員会（第２回）	１　開催日　平成２９年１１月２８日（火） ２　出席者 ⑴　評議員（定数８人、総数８人） 出席　　８人 欠席　　０人 ⑵　監　事（定数２人、総数２人） 出席　　２人 欠席　　０人 ３　議事 ⑴　報告事項 ⑵　審議議案 議案第11号　社会福祉法人新の会定款の一部改正について 上記議案を審議し、議案はいずれも原案のとおり議決した。
第５回理事会	１　開催日　平成３０年３月１２日（月） ２　出席者 ⑴　理　事（定数６人、総数６人） 出席　　６人 欠席　　６人 ⑵　監　事（定数２人、総数２人） 出席　　２人 欠席　　０人 ３　議事

	⑴　報告事項 定款変更について 理事長の職務執行状況報告について ⑵　審議議案 議案第27号　平成２９年度社会福祉法人新の会収支補正予算（第１次）について 議案第28号　平成３０年度社会福祉法人新の会事業計画について 議案第29号　平成３０年度社会福祉法人新の会収支予算について 議案第30号　社会福祉法人新の会定款細則の一部改正について 議案第31号　社会福祉法人新の会経理規程の全部改正について 議案第32号　社会福祉法人新の会非常勤、パートタイマー就業規則の一部改正について 議案第33号　社会福祉法人新の会トライアングル・フルハウス・ハミング登録ヘルパー就業規則の一部改正について 議案第34号　社会福祉法人新の会はあと・ふる・えりあ工賃設備等整備積立金の取崩しについて 議案第35号　平成２９年度社会福祉法人新の会第３回評議員会の日時及び場所について 議案第36号　平成２９年度第３回評議員会に提案する平成３０年度社会福祉法人新の会事業計画について 議案第37号　平成２９年度第３回評議員会に提案する平成３０年度社会福祉法人新の会収支予算について 上記議案を審議し、議案はいずれも原案のとおり議決した。
第３回評議員会	１　開催日　平成３０年３月２７日（木） ２　出席者 ⑴　評議員（定数８人、総数８人） 出席　　７人 欠席　　１人 ⑵　監　事（定数２人、総数２人） 出席　　２人 欠席　　０人 ３　議事 ⑴　報告事項 ⑵　審議議案

	議案第12号　平成２９年度社会福祉法人新の会収支補正予算（第１次）について 議案第13号　平成３０年度社会福祉法人新の会事業計画について 議案第14号　平成３０年度社会福祉法人新の会収支予算について 上記議案を審議し、議案はいずれも原案のとおり議決した。

２　評議員選任・解任委員会の開催状況

なし

３　第三者委員会の開催状況

なし

第４　監事監査

平成３０年５月２５日（金）に西田監事及び内山監事により、平成２９年度に対する業務執行状況及び財産の状況について実施された。

１　運営関係（西田監事）

⑴　理事長重任の件について法や規程に基づいて、正しく処理を行ってほしい。また、事業報告については、適切に用語を使用し、実態が伝わるような表現を心がけてほしい。

⑵　工賃について、現状のマイナス分の補填を運営費より捻出しているのはバランスが良くない。工賃のあり方について再検討し、適切な執行を行ってほしい。しかし、売上が伸びていることは、利用者・職員の努力の結果である。

⑶　給食業務について、赤字解消や直営方式等を検討し、継続を前提に検討してほしい。

⑷　リスク件数が昨年度よりかなり減っている。安定した業務運営がされているので、それを継続していくことが大切である。

⑸　中・長期的な展望をもって今後のことを検討していくことが必要である。

⑹　理事会・評議員会には精査された書類を提出し、議事がスムースに進むように対応してほしい。

２　経理関係（内山監事）

⑴　総括表をもとに照合し、特に問題はなく決算に反映されていると確認がとれた。

⑵　資金収支でマイナス約１２００万、事業活動計算書の経常増減差額でマイナス約７００万という厳しい状況であると判断できた。

⑶　設備等整備積立資産の就労分は正しく振り替えられていた。

⑷　備品管理台帳については、備品に番号が付され作成されていた。

⑸　預金残高については、適正であると確認がとれた。

第５　委員会及び会議

１　委員会

⑴　リスクマネジメント委員会

福祉サービスを利用者に提供する過程で、常に様々なリスクが存在することを意識し、各事業所において事故を起こさないよう日々取り組んだ。しかし、重大な事故に至らないまでも突発的な事象やミスにヒヤリとしたり、ハッとしたりすることが起きるのが現場である。事故やヒヤリ・ハットの情報を集め、それを活用すべく委員会では情報を分析（原因や発生しやすい場所などを解明）し、発生を予防する体制作りや対策を検討した。

ア　委員会の開催回数

４回

イ　取組

平成２９年度も、各事業所の職員を委員会の構成メンバーとした。ハミング・トライアングル・フルハウスの職員が出席しやすいように、委員会を開催する曜日を木曜日から水曜日に変更した。活動内容は、事故報告書及びひやりはっと報告書に基づき、事故分析を行い再発防止に向けた対策を検討した。

ウ　報告書件数

平成２９年度　　＊（　）内は昨年度件数

事故報告書	１８件	（３３件）
物損事故報告書	０件	（1 件）
ひやりはっと報告書	１５１件	（３４７件）
合計	１６９件	（３８１件）

エ　報告書内訳

怪我	３件	他害	７２件
服薬	５件	自傷	３０件
行方不明	２件	情報漏洩	１件
転倒	１件	物損	３７件
転落	０件	発作	２１件
誤嚥異食	３件	その他	７件

※ダブルチェック（例:他害と物損）の報告書が１２件あった。

⑵　安全衛生委員会

各事業所の安全と衛生に関する事項の環境整備を基本に、衛生管理の徹底、感染症予防対策、利用者の服薬管理、防災、健康診断等に取り組んだ。

ア　委員会の開催回数

１２回

イ　施設の「安全衛生」環境整備

インフルエンザの発生にともない「発症後５日経過、解熱後２日経過（解熱した日は含まない)」を再確認した。

ウ　年２回の防災訓練の実施

防災訓練に関しては、自主防衛隊を組織し、平成２９年度は地震を想定した訓練を４月に実施し、火災を想定した訓練を９月に実施した。

エ　利用者の服薬管理の徹底

災害時における１週間分の備蓄薬管理を行い、利用者の服薬状況を把握した。また、日常の服薬チェックも服薬担当と部門担当のダブルチェックを行い、忘薬、誤薬がないよう管理を前年に引き続き継続した。

オ　インフルエンザ予防接種の実施

１１月９日に接種希望利用者、職員及びパート従業員に対してインフルエンザ接種を実施した。

カ　健康診断・利用者内科検診

５月に施設内で利用者健康診断を実施した。職員健康診断に関してもほぼ全員の診断を実施した。利用者内科検診は継続して実施し、看護師による定期的なバイタルチェックも行い、３月にはその結果をまとめ、家族に通知した。

キ　その他

備蓄品に関して、多くの備蓄品が期限を迎えるため、８月に入れ替えを行った。取扱会社が事業撤退したため、新しい業者を選定し対応した。

⑶　虐待防止委員会

「障害者虐待の防止、障害者の養護者に対する支援等に関する法律」に基づき利用者の安全と人権保護の観点から虐待の防止とその適切な対応を推進する活動を行った。委員会の役割としてある「虐待防止のための計画づくり」「虐待防止のチェックとモニタリング」「虐待(不適切な対応事例)発生後の検証と再発防止策の検討」に取り組んだ。

なお、一昨年設置した「どうだろう箱」への投函はなかった。

ア　委員会の開催回数

５回

イ　「虐待防止マニュアル」の「はじめに」の部分の挿入と理念の確認

虐待防止マニュアルを作ったことの意義や位置づけを明確にするため、「はじめに」の部分を作成し、職員運営会議や新人職員の入職時のオリエンテーションで職員へ周知した。

ウ　「利用者支援ガイドライン」の検討・見直し及び職員への周知

「利用者支援ガイドライン」を検討・訂正し、虐待防止マニュアル同様、職員運営会議や新人職員の入職時のオリエンテーションで職員へ周知した。

エ　職員セルフチェックの実施

「障害者の虐待防止に関する検討委員会」のチェックリストを活用し、職員のセルフチェックを実施した。

２　会議

⑴　経営会議

理事長、管理職が参加し月１回開催した。４月より新たに新施設長も加わり６名となった。昨年度に引き続き事務長の依頼により小笠原理事、西田監事も参加し、法人の様々な問題に関して助言や提言があった。

⑵　施設長会議

施設長、事務長が参加し、週１回開催した。法人のあらゆる問題に対しての対応を協議・検討した。

⑶　職員運営会議

各部門の代表者を集め、月１回開催した。

⑷　研修会議

研修会議のメンバー構成が、全員施設長会議に参加しているため、個別での研修会議は開催せず、施設長会議の中で話し合いをした。

⑸　広報会議

５月・10 月・２月に会報を発行した。

内容が濃いものになるように、回数を減らしていった。会報の中身を分担せず作成した結果、効率よく作業できた。

⑹　事務会議

１２回の会議を開催した。

３　職員研修

⑴　法人内研修

	月日	内容	法人外 参加人数
第１回	７月 15 日 （土）	・障害者福祉施設における グループワークの基礎 講師／関屋光泰氏	―
第２回	２月 10 日 （土）	・支援員に求められる視点とは何か ～「これから」を意識した 個別支援のあり方について～ 講師／綿　祐二氏	24

⑵　外部研修

No.	月日	研修名	人数	延べ数
1	５月 30 日 31 日	福祉職員職務階層別研修　初任者研修	1	1
2	６月 ６日 19 日 27 日	はじめて社会福祉を学ぶ福祉職員のための スタートアップ研修	1	2
3	６月 ９日	社会福祉法人会計基礎研修	1	3
4	６月 11 日	ＴＥＡＣＣＨ　～現場で使える技術～	2	5
5	６月 26 日 27 日	相談支援従事者初任者研修（講義）	1	6
6	７月 １日	心の成り立ちと支援	1	7
7	７月 ７日 10 日 ８月 １日 ２日	相談支援従事者初任者研修	1	8
8	７月 20 日	強度行動障害支援アドバンス研修	1	9
9	８月 30 日 ９月 20 日 21 日	相談支援従事者現任研修	1	１０
10	11 月 １日 13 日 14 日	サービス管理責任者研修（地域生活）	1	１１

11	11 月 9 日 13 日	強度行動障害支援者養成研修（基礎研修）	1	１２
12	11 月 21 日 27 日	障害者虐待防止・権利擁護研修（管理者コース）	1	１３
13	11 月 22 日	知的障害者の生活支援と医療 ～配慮したい、薬と環境調整のポイント～	1	１４
14	1 月 11 日 1 月 25 日 2 月 8 日	知的障害者のための読書支援サポート講座	1	１５
15	1 月 29 日	「個別支援計画」作りを再考する ～「これからの生活」を実現するには～	2	１７
16	3 月 5 日 6 日 12 日 13 日	行動援護従事者養成研修	2	１９

Ⅱ　はあと・ふる・えりあ（就労継続支援Ｂ型・生活介護）

第１　総括

平成 30 年度に向けて、はあと・ふる・えりあ経営案を提示した。障害者の通所施設の役割を再確認し、支援とは何かという根本の問題を提起し、施設に見られる支援観の違いを克服するための提案であった。そして、何のために支援し、障がい者の幸せにつながる生き方とはどのようなものかを明らかにした。

また、はあと・ふる・えりあの収支の状況や、職員の定着に向けての、アニバーサリー休暇の取組を提示した。そして、資格取得者のための補助金の提示、ケース会議を全体でやることのメリットについて提案した。最後に、施設整備を含めた中・長期計画を示した。今年度はこの計画に基づき、屋根防水工事を業者に依頼したが特別問題ないと診断された。しかし、次年度の以降に計画していた送迎車取得のための補助金申請や空調工事依頼は、すぐに対応が必要なために、今年度から前倒しで取り組むことになった。

開設以来、給食をお願いしていた業者が、管理費の値上げを告げてきた。給食での赤字がますます増えるために、来年度からクックチル方式での給食に切り替える。

当初は、ハローランチを考えていたが、温かいご飯や味噌汁を提供してほしいとの保護者の強い願いがあり、このような形での給食を提供することとなった。

3 年に一度の第三者評価を受ける年にあたり、3 年前と同じ、特定非営利活動法人人材開発機構に評価をお願いした。利用者の調査では、施設の取組に満足している人が多かった。家族のアンケートでも、ほぼ同じ傾向であったが、法人の運営について気になる点があるという方が多かった。これは、職員の定着がうまくいっていないことへの不満の表れと見られる。特に、工芸部門担当職員が何回か変わった。原因を分析し、長く勤められるように対応していく。また、職員の調査では、人材育成計画の策定がなされていないことが指摘された。全体での研修を進めながらも、個々の状況を見定めて、育成計画を立てていく。

今年の冬は、インフルエンザが猛烈な勢いではやったが、利用者の感染は少なくまた、大雪にもならず落ち着いた日々を過ごすことができた。施設の閉鎖もなく、休みも少なかったので、売り上げが昨年度より向上することを期待していたが、わずかであるが下回った。新しい目標を掲げていく。

１　個別支援計画の実現を支援の原則とする。

昨年度の個別支援計画の研修によって、計画作成とその検証が大切にされなければならないことを理解した。毎年、9 月と 3 月は、利用者、保護者との面談期間とし、計画の内容を確認し同意を得ている。この計画を地道に進めていくことが利用者を伸ばし、育んでいくことにつながっていく。

２　視覚的効果等を用い作業環境、生活環境を整える。

各部門において、利用者のために、快適な生活空間を整え、安心して作業に取り

組める環境作りを行った。また、朝会では、一日の活動内容を明示し、見て確認することによって見通しを持って１日が過ごせるように対応した。

しかしながら、利用者が毎年同じ仕事に従事していると、新しく視覚効果のある写真等を掲示することが少なくなってくる。新しい興味の持てる作業を導入し、その手順や作業内容を示すための掲示をしていく。

３　工賃アップを目指し、共同受注等の取組を積極的に行う。

共同受注作業の窓口である調布市福祉作業所等連絡会と連携を図り、情報収集に努めた。その中で、図書館メールと教育メール、こころの健康支援センター清掃を、固定的に扱うことができ、工賃アップに貢献している。また、他の作業所と連携・協力し、クッキー等の販売や、チラシのポスティング作業を行っている。

４　研修や資格取得への情報提供を積極的に行い、職員のスキルアップを図る。

社会福祉士、介護福祉士、精神保健福祉士の３つの国家資格の取得に対して事業所として補助金を出すことを行った。またそれ以外にも「知的障害援助専門員」研修など、一定の歴史があり、社会的な評価のある研修に対しても補助金を出すこととした。このことで、職員が資格取得や研修を通してスキルアップ、キャリアアップを図っていこうとの機運が出てきた。

５　利用者家族との連携を深める。

連絡帳を通して、利用者家族と連携を図っている。しかし、文章だけだと伝わりにくいことに関しては、適時電話を使い両者の意思疎通を図っている。また、全体へのお知らせは、プリントやメールにて行った。施設連絡会では、質問や意見が出され活発に出され論議が行われたが、概してよい関係を保つことができたと考える。

６　はあと・ふる・えりあの就労支援事業収支の改善を図る。

昨年度収支が 210 万円の赤字となり、関係機関から改善についての意見を頂いた。今年度は赤字額が 240 万円となり、昨年度よりも売上が少し減少し、赤字額が多少増えた。この赤字をどのように解消するか、様々な機関で検討していく。

第３　利用者数

平成３０年４月　１日現在　５０人
（就労継続支援Ｂ型２５人・生活介護２５人）
平成３１年３月３１日現在　４７人
（就労継続支援Ｂ型２３人・生活介護２４人）

平成３０年５月９日付就労継続支援Ｂ型利用者１名退所
平成３０年６月１４日付就労継続支援Ｂ型利用者１名退所
平成３１年２月２７日付　生活介護の利用者１名退所

第４　部門事業報告

1　食品グループ（パン部門・喫茶部門・食品加工部門・外販部門・妖怪焼き部門）

⑴　パン部門

ア　利用者数　６人

職員　職業指導員１人　生活支援員１人　パン製造補助４人（12 月に１人増）

イ　活動報告

(ｱ)　安全に作業できる環境を作る

危険な作業の時は、必ず周囲を確認して声かけを徹底した。互いに気をつけて作業を行い、大きな怪我・事故はなかった。職員が率先して声を出すことにより、声をかけ合う環境を維持できた。

(ｲ)　利用者の情緒の安定を図る

４月から担当職員が変わり、個々の特性を理解できるまでに時間を要したが、職業指導員と連携することで安定して作業に取り組むことができた。情緒の変化や状況に応じた対応には、今後も意識を高めていくことが必要である。3 月はパン部門の利用者全員が皆勤となった。今年度初めてであった。

(ｳ)　支援の統一化を図る

パン工房には、喫茶・妖怪焼きの職員が同じ現場にいるため、支援の統一が課題であった。まずはパン職員が連携をすることで、個々の特性の理解に努めた。その後、毎月の会議等でケースの検討を行い、情報を共有することで統一した支援を図った。

(ｴ)　利用者のパン技術の習得と底上げ

成形では、新しいパンを作った（まきまきドーナツ）。技術面は、同じ作業の中で担当するパンの種類を増やしていった（窯出し・トッピング）。

１２月に製造補助職員が増員されたことで、職員に余裕ができ、利用者が作るパンの技術の向上が徐々に図れることとなった。

(ｵ) 顧客の維持を図る

９月に駅前に大規模商業施設ができてから、一時期客足が鈍った時期があった。職業指導員に時間的余裕ができたため、来年度を見据えた新商品の開発や大幅な商品見直しの計画を始めた。お客様のニーズに合ったパン作りが今後の目標である。新商品：まきまきドーナツ、桜あんパン、桜メロンパン、ロースかつサンド、エビかつサンド

(ｶ)　出店イベント　　５か所

・4 月 29 日（祝）中央メーデー　（代々木公園）　ラスクのみ
・6 月 17 日（木）桐朋学園音楽祭　（たづくり）
・8 月 26 日（土）調布市　観光フェスティバル　（駅前広場）ラスクのみ
・11 月 24 日（金）老人会　　（調布グリーンホール）
・12 月 2 日（土）調布市福祉まつり　（市役所前広場）　シュトーレン

職業指導員の代休が取れないため、土・日のイベントにパンを出すことができない状況は変わらない。福祉まつりでは、クリスマス商品のシュトーレンで売上を向上させた。参加イベントは、他部門が参加する時や売上が見込めるイベントを選択した。結果的に昨年度より１０か所少なくなった。

(ｷ) 販売及び配達先　　１６か所

ケアコム、ゆうあい、センターたづくり、ライフコミューン、ニチイ、フロリール、よみうりランド、アルメリア深大寺南、リレ府中、武蔵台学園、調布特別支援学校、けやきの森学園、東洋マーク、星と風のカフェ、調布市社会協議会ドルチェ、ブレインチャイルド

(ｸ) 年間売上

平成２９年度　7,840,547 円

前年度売上　　7,351,737 円

前年度比　　107%

	Ｈ２９年度	前年度		Ｈ２９年度	前年度
４月	624,315	409,915	10 月	636,821	616,753
５月	580,484	561,642	11 月	755,177	796,600
６月	760,430	695,861	12 月	808,650	817,482
７月	606,651	639,071	1 月	550,952	602,503
８月	550,815	475,600	2 月	605,316	547,088
９月	610,205	647,011	3 月	750,731	542,211
合計				7,840,547	7,351,737

(2) 喫茶部門

ア　利用者数　３名（所属は２名、うち１名は半日パンで作業、
１名は週に２日半日喫茶）

イ　活動報告

(ｱ) 利用者の接客態度の向上

お客様への対応は、向上している。丁寧で優しく、周りをよく見てお客様中心の動きができていた。

自然な笑顔が出せるように、ニコちゃんマークを使って、さらなる向上を目指した。

(ｲ)　売上向上を目指す

平成２９年度　788,336 円

前年度売上　　739,197 円

前年度比　　106.6%

売上目標　950,400 円に対し 83 %

1か月の平均売上額　約65,700円。

235日営業して、１日あたり約3,360円の売上であった。

前年度を上回った要因は、パン職人の定着と、ノロウィルス・インフルエンザなどの感染症予防対策が功を奏し休業日を最小限に抑え、営業日数が増えたことである。

７月からは、午後のデニッシュパンおやつセットの販売を始めたところ、定着し毎月10～14セット出ている。だが、売上目標も前年度(売上目標950,000円に対し 83%)を僅かながら上回っているものの、目標金額には、まだまだ届いておらず、テコ入れや新展開が必要である。

また、美味しいコーヒーが飲める清潔感のある落ち着いたカフェを目指し、店内のレイアウト変更や、ユニフォーム・壁紙の新調、新コーヒーメーカーの導入により、来客数を増やした。

今後の課題は、作業所の喫茶店として気軽に“行ってみたい店”として来客数を増やし、お客様の目線に立ち、“また来たい店”になることである。

来客数を増やすため、近所へチラシを配布し、リピート客を増やすため、ポイントカードを始める。

【平成29年度　喫茶売上と営業日数　及び　前年比較】

	平成２９年度 売上	平成２９年度 営業日数	平成２８年度 売上	平成２８年度 営業日数
４月	60,190	20	17,487	5
５月	65,222	19	61,625	17
６月	76,608	22	74,606	21
７月	66,379	20	64,318	19
８月	67,421	19	56,774	18
９月	66,706	20	72,116	21
10月	57,816	20	67,788	20
11月	81,320	21	88,628	22
12月	54,807	18	60,469	18
１月	51,677	18	57,359	17
２月	62,612	18	55,309	16
３月	77,578	20	62,718	17
合計	788,336	235	739,197	211

(ｳ)　メニューを増やす

新しいコーヒーメーカーの導入により、カフェオレ・アイスカフェオレの新メニューを作成。

(ｴ)　消費税の低減税率導入について対応する

１円単位の計算になるが、練習と実践を重ねたので利用者のレジ担当も計算に慣れてきた。

⑶　食品加工部門

ア　利用者数　７人、うち１人は籍のみ　　職員　5,6 月は１人体制

イ　活動報告

(ｱ)　売上向上を図る

年間売上

平成２９年度　1,862,966 円

前年度売上　　1,404,206 円

前年度比　　132.6%

“作れるものを売る”から、“売れるもの・買ってもらえるものを作る”ことへ視点を動かした。また、外販でもクッキー等を販売し、店舗と変わらないほどの成果を上げることができた。

店舗売上…全体の 43%　　外販売上…全体の 32%

販売先	ゆうあい	たづくり	けやき	フロリール	ニチイ・武蔵台
回数	44	42	63	66	32
売上額	45,512	61,329	90,360	42,974	149,744
販売先/外販売上	7.7%	10.4%	15.3%	7.3%	25.3%
販売先	ケアコム	調布	さつき	ライフコミューン	他
回数	36	30	19	12	18
売上額	11,344	66,184	39,908	41,234	74,474
販売先/外販売上	1.9%	11.2%	6.8%	7.0%	12.6%

a　納品業務

調布メモリードホール、調布市役所、飯野病院、星と風のカフェ

調布のやさい畑、東山病院

b　イベント等

ＪＣＢ菓子フェス＋、星と森と絵本の家、福祉まつり、星風マート

c　飽きない商品を作り、利用者をメインとした環境を作った

利用者の個々の特性を長所にしながら、いつもの商品にアレンジを加えることで、幅広い新しい商品作りに取り組んだ。作れるものから、売れるもの・買ってもらえるものへと視点を動かした。また、職員が製菓作りの１日講習に参加して、アイシング・マカロン・マフィンなどの技術を学んだ。(クオカスタジオ)

(ｲ)　作業現場を清潔に保つ

手洗いについては、しっかりと認識しており実践はできた。片づけ・整理整頓などは、まだまだ支援が必要である。特に床掃除に関しては、週に１度程度

しかできなかった。

(ｳ)　利用者による不良品判別のスキルを高める

利用者の安定が図られたので、商品の質を維持することはできた。利用者が不安定になれば、質の悪い商品ができてしまうことに繋がる。また、職員が多少であるが講習を受けたことを伝え合うこともスキルの維持に繋がった。判別については、“塩梅”への理解が困難なため求めなかった。

(ｴ)　時間内に作業を終えることを意識して仕事をする

利用者の個々の特性が異なるので、時間の認識はとても難しい課題である。終わりの時間を意識するように、作業を組み立て取り組んだ。

(ｵ)　楽しく余暇活動や作業に参加する

利用者の“不安な気持ち”を受け入れることで安心して作業をする環境を作った。また、“悪いことをする人”の利用者の認識を“いいこともしている人”に改めることで、“お互い様”を理解できるような工房にした。

また、他害等で大きく周囲に影響を及ぼす場合には、“やってはいけないこと”をきちんと話しをして、社会性（ルール）を伝えた。

(4)　外販部門

ア　利用者数　３人

イ　活動報告

(ｱ)　売上向上を図る

平成２９年度　3,173,060 円

実質売上　　2,786,248 円

昨年度比　　113.8%

28 年度まで 2 年続けて売上減が続いていたが、昨年度より 39 万円ほど売上増。

(ｲ)　支援の統一を図る

会議などで支援の統一を図ることができていた。外販としての支援などを他の職員から支持してもらえた。食品の職員だけでなく、生産の職員ともコミュニケーションをとりながら支援の統一を図れたと考える。

(ｳ)　利用者の技術向上を目指す

①　接客の際、お客さんへ声をかける

利用者が全く声を出していなかったが、職員が手本となることで少しずつ声を出して接客できるようになっている。まだ課題も残るが、職員が手本になることは続けていきたい。

②　袋詰め作業の定着

袋詰めをきれいに仕上げるために声かけをしてきた。袋詰めのパンの裏に成分表示シールを貼る時、「パンの袋のしわを伸ばして貼って下さい。」と

言うが、なかなか一度定着してしまった作業を変えるのは難しかった。

(ｴ) 衛生管理を徹底

① 手洗いの励行

手洗いは、進んでやっていた。除菌の意識向上はされてきた。

⑸ 妖怪焼き部門

ア 利用者数 １人

イ 活動報告

(ｱ) 移動販売における販売場所の確保をし、売上向上を図った

火・木・金曜の午後、定期的に南口広場の販売をした。７月からは、駅前の大型電気店の前で販売（広場は産業振興課が管理）をした。

(ｲ) 夏の売上低下における対策を行う

かき氷（いちご・メロン・抹茶）の販売を実施し、夏季の売上向上を目指した。好評につき、来季も5、6月から実施予定。

また土日の市民プールでの販売を実施した。こちらも、とても喜ばれた。

(ｳ) 真空パックでの販売を実現する

未実施。今後の展望も難しく、未定とする。

(ｴ) 店舗への集客アップを図る

南口・駅前広場・イベント出店での販売時に、お礼状を添付して店舗のＰＲに努めた。

おしぼりに、妖怪の絵（一反もめん風）を描いた所、お客様に好評だった。継続し一つの作業とする。

(ｵ) 年間売上

平成２９年度 2,810,265円

前年度売上 2,460,805円

前年度比 114.2%

【 表１ 】 平成２９年度 イベント出店実績

月	日	曜日	イベント	会場	売上	種類	主催・担当
4	2	日	さくらまつり	調布中学校	23,920	茶	石原健全
	8	土	深大寺 手作り市	深大寺境内	17,940	白	深大寺
	9	日	深大寺 手作り市	深大寺境内	10,140	白	深大寺
	22	土	三鷹菓子フェス	三鷹JCBカードセンター玄関前	15,220	茶	星カフェ
	29	土	メーデー中央大会	代々木公園	56,680	白	連合活動局

				ドリンク	158,530		連合活動局
5	3	祝水	深大寺　手作り市	深大寺境内	22,100	白	深大寺
	4	祝木	深大寺　手作り市	深大寺境内	20,540	白	深大寺
	5	祝金	深大寺　手作り市	深大寺境内	20,020	白	深大寺
5	9	火	ＮＨＫ販売	ＮＨＫ内	41,610	茶	ＮＨＫ厚生文化事業団
	13	土	アースデイ	市役所前	16,590	茶	実行委員会
6	10	土	みつばちさんのオーガニックフェスタ	千歳烏山駅前	18,200	白	実行委員会
	17	土	深大寺　手作り市	深大寺境内	16,380	白	深大寺
	18	日	深大寺　手作り市	深大寺境内	10,660	白	深大寺
7	1	土	ラグビーフェス2017	味スタ西競技場	23,400	白	オリ・パラ課
	16	日	シークレットベース プロレス	はあとふる店舗	15,810	茶	新の会
	21	金	鬼燈まつり	深大寺 深沙の杜	7,800	白	実行委員会
	22	土	鬼燈まつり	深大寺 深沙の杜	11,700	白	実行委員会
	23	日	鬼燈まつり	深大寺 深沙の杜	14,040	白	実行委員会
8	5	土	市民プール	市民プール	20,800	白	スポーツ振興課 市民サービス公社
	6	日	シークレットベース プロレス	はあとふる店舗	7,730	茶	新の会
	12	土	市民プール	市民プール	10,660	白	スポーツ振興課 市民サービス公社
	18	金	モヤモヤさまーず２撮影	深大寺境内	1,300	白	テレビ東京
	26	土	調布 観光フェス	市役所前	13,630	茶	産業振興課
	27	日	調布 観光フェス	市役所前	21,820	茶	産業振興課
9	2	土	ＴＯＹＯＴＡ販売	トヨタ調布	24,600	茶	調布店店長
	16	土	セプテンバーコンサート	駅前広場	23,580	茶	実行委員会

	18	祝月	深大寺　手作り市	深大寺境内	30,160	白	深大寺
10	8	日	シークレットベース プロレス	店舗	9,510	茶	新の会
	9	祝月	深大寺　手作り市	深大寺境内	33,280	白	深大寺
	28	土	仙川保育園　親子ふれあいまつり	仙川保育園	30,010	茶	父母会、園長先生
	28	土	YWCA オータムフェア	YWCA 国領	18,410	茶	YWCA 国領
	29	日	わくわく広場まつり	こころの支援センター	24,440	白	社協
11	3	金	いろどりマルシェ	布田天神	39,260	白	実行委員会
	4	土	はあとふる祭	店舗	29,275	茶	タピオカドリンクも販売
	5	日	ルーテル　愛祭	ルーテル学院大学	34,060	白	愛祭実行委員会
	12	日	シークレットベース プロレス	はあとふる店舗	8,090	茶	新の会
	18	土	調布市農業まつり	市役所前	21,640	茶	農政課
	19	日	三鷹福祉バザー	中央防災公園	42,640	白	三鷹社協
	22	水	東京 D&I	東京 D&I ビル飯田橋	8,770	茶	東京ボランティア・市民活動センター
	25	土	深大寺そば祭	深大寺境内	26,520	白	深大寺
	25	土	ゲゲゲ忌 店販売	はあとふる店舗	18,040	茶	新の会
	26	日	ゲゲゲ忌	布田天神	63,180	白	産業振興課
12	2	土	調布 福祉まつり	市役所前	47,450	茶	調布社協
2	18	日	シークレットベース	はあとふる店舗	7,870	茶	新の会
3	18	日	まち活フェスタ	国領駅前広場	33,960	茶	実行委員会
	27	火	鬼太郎上映会	駅前広場	36,660	白	産業振興課

※　イベント参加費　　ＮＨＫ販売　10 パーセント、メーデー　¥5,000

種類　　白・・・単価 260 円　　茶・・・160～210 円

【　表２　】　平成 29 年度　南口広場／駅前広場 販売実績　及び　前年度比較

	平成２９年度 売上	平成２９年度 実施回数	平成２８年度 売上	平成２８年度 実施回数
４月	69,800	10	1,500	1
５月	33,650	8	0	0
６月	48,710	11	0	0
７月	57,580	9	0	0
８月	48,680	8	0	0
９月	74,940	11	0	0
10 月	83,620	10	64,670	10
11 月	87,920	10	53,790	7
12 月	69,800	8	61,040	8
１月	39,280	6	89,870	11
２月	33,020	5	42,670	5
３月	41,530	7	79,710	9
合計	688,530	103	393,250	51

２　生産グループ（受注部門・工芸部門・園芸部門）

⑴　受注部門

ア　利用者数　１６人

イ　活動報告

(ｱ)　円滑な部門運営

ａ 報告・連絡・相談の徹底

ｂ 家族、ほっとわん、他部門との連携

ｃ 事業計画進捗状況の確認

ｃ については、昨年度は部門会議にて報告・確認を実施した。そこで本年度においても同様に計画したが、事業計画の進捗・達成状況の把握をする必要性の意図の理解を求めるには難しい部分があったため、会議での確認を徐々に行わなくなった。

(ｲ)　個別支援の計画的な実施

ａ 個別支援実施プランの作成

ｂ 個別支援実施プランに沿った支援の実践

ｃ 部門会議で個別支援計画進捗状況の確認

ｄ 個別支援計画のモニタリング重点期間７月から９月の実施

ａ ～ｄについては、部門運営の基盤を再構築するため、そこで新たに協力・協調体制を整える事が急務となったが、職員各々の考え方・仕事への向き合い方の方向性を結束させることに困難さが生じ、チームとして計画的に個別支援をスケジュールプラン書に落とし込むまでに至らなかった。したがって、個別支援計画の一部で達成状況が「できなかった」と、評価が下るケースも実在した。

(ｳ)　活動プログラムの充実

ａ　受注作業の量が少ない時には、タイムリーなテーマを定めて、社会生活力学習を実施

ｂ 慰労会（お楽しみ会）２回/年の実施

ａ については、作業活動を主体的に実施した結果、未実施

ｂ については、個別対応の時間の確保が滞り、１回/年のみの実施となった

(ｴ)　能力の向上

ａ 課題テーマと目標の設定Ⓟ

ｂ 計画に基づいた実施Ⓓ

ｃ 推進者との面談１回/月の実施Ⓒ

ｄ 課題の解決策を練り、ステップアップを図るⒶ

ａ～ｄ　については、計画設定時においては、部門職員の 0JT への意欲と意識がある段階であったが、平成 28 年度 3 月末における新年度職員体制の変更の

通達により OJT 導入の段階ではない状態と判断した為、実施を見送った。

(ｵ)　三市合同（調布市、府中市及び多摩市）共同受注作業の取組を継続

受注可能な範囲において新規受注作業を請負うこととしたが、受注依頼の実績なし。

(ｶ)　年間売上

平成２９年度　2,770,464 円

前年度売上　　2,637,092 円

前年度比　　105.1％

(ｷ)　受注職種

公園清掃、図書メール、教育メール、シームーン（ギアタイ）

アクセスワールド（缶バッヂ）、ソフリン、ふくしの窓、ごみカレンダー

ちょこっと共済、一般社団法人　日本翻訳協会（イベントチラシ封入作業）

市内商店街の七夕飾り制作

⑵　工芸部門

ア　利用者数　６人

イ　活動報告

(ｱ)　部門運営の安定化を目指す

利用者の言動等をきっかけに、他利用者が不穏となり他害におよぶことがあったため、安全の確保、安定した部門活動を第一に職員間の情報の共有、作業環境の整備に努めた。窓を隠していた棚を移動し空間に広がりを持たせ室内の状況に意識が向き過ぎないよう工夫した。また、集中して取り組める作業を提供できるよう、個々の利用者に合わせて新規の作業プログラムを取り入れた。１２月中旬から職員体制に変更があったため、利用者の不安感などを軽減できるよう関係性の構築を図った。

(ｲ)　着実な個別支援計画の実践

利用者の心身面の変化が大きい１年だった。発作が増えた利用者や疲れが残りやすくなった利用者、骨折のため車椅子で通所した利用者など、まずは安心や安全を考慮した支援が求められ、家庭と連携を取りながら状況の変化に対応できるよう努めた。そのため、個別支援計画の年間を通した取組、例えば目標とした「新たな作業を取り入れる」を中断し、安定につながる「定番の作業の提供」を優先し、実施できたとは評価できないものもあった。しかし、９月の中間面談や３月の年度末面談では、本人や家族と個別支援計画について

振り返り、共に確認できるように努めた。

(ｳ) 在庫整理と売れ筋商品の新規開発

６月から３ヶ月間、商品を入れ替えてサマーセールを行い、在庫として残っていた商品をほぼ完売することができた。また、新たに取り入れた作業で新しい商品の販売ができた。アクセサリーに仕上げたものは、イベントなどの販売時に女の子（小学生～１０代）の購買層に受けがよかった。

(ｴ) 研修会への参加

他害防止が部門の第一の課題であり、障害特性の理解や部門環境の構造化等を学ぶ研修に部門職員揃って参加した。

(ｵ) 年間売上

平成２９年度　567,819 円
前年度売上　524,914 円
前年度比　108.1%

(3) 園芸部門

ア　利用者数　８人

イ　活動報告

(ｱ) 活動主体を園芸からアパート清掃に移す

部門運営上、売上額としては「アパート清掃」の方が、「園芸活動」よりも、貢献している事実に変わりはない。しかし、生活介護中心の園芸部門利用者の「落ち着ける場所・活動」としての畑での作業に意義があるのも確かであると考え、並行しての活動を継続した。

(ｲ) 適切な活動プログラムへの移行

年度初めのイメージとしては、「アパート清掃中心」の活動プログラムを構築したいという意味合いであった。しかし園芸と清掃とを並行して行う体制に変化がなかったため、新たなプログラムの構築・移行へは至らなかった。

(ｳ) 着実な個別支援計画の実践

利用者に、「薬の服用を中断した者」、「母親が急逝した者」などが出たため新たな実践に取り組むのは控え、「安定して過ごせる空間や時間」を提供することに努めた。生活面での安定を図るといった個別支援計画は達成できていると考える。

(ｵ) 年間売上

平成２９年度　957,391 円
前年度売上　988,664 円
前年度比　96.8%

３　部門以外の活動

⑴　健康支援

ア　活動内容　毎週月曜日午後、各部門対応で歩行の実施。

イ　利用者数　３６人

ウ　職員体制　各部門職員

エ　活動報告

(ｱ)　毎週月曜午後に歩行を行う

毎週月曜日の 13:00 から 15:30 に、酷暑時・荒天時を除き歩行を行った。各部門ごとの歩行としたことで、部門によっては別の曜日に実施した。

(ｲ)　酷暑時には別プログラムを提供

7 月 11 日より 9 月 26 日までを夏季の熱中症予防対策として、室内レクリエーションとプール利用を行った。レクレーションの内容は、ペットボトルボーリング、風船バレー、ダンス等である。基本的に部門ごとの対応とした。

⑵　クラブ活動

ア　活動内容　毎週水曜日の午後、４つのクラブに分かれ、楽しい時間を過ごす。

イ　利用者数　４９人

ウ　職員体制　運動クラブ４人
音楽ダンスクラブ４人
美術クラブ２人
家庭科クラブ２人

エ　活動報告

(ｱ)　クラブの円滑な実施

a 職員の体制作り

b 業務の計画、総括の作成

c 「楽しく充実した」活動の企画

a については、職員の入退職のため、職員の体制が安定できなかった。２つのクラブを合同にするなど、職員配置を工夫し、活動の実施に努めた。

⑶　学習

ア　活動内容　社会生活力のスキルアップを図る学習

前年に引き続きは担当職員２名で実施。毎週 1 回（月４回位）45 分間の個別支援のタイムテーブルは変更なし。食品関係など作業パートから移動するため着替えのタイミングや体力などを配慮して、どの時間帯が適当かを検討してスタートしたが、外販などの関係で１０月に１部の利用者の枠を変更した。個別支援計画を立案し、作業やほっとわんの支援計画も視野に入れて取り組んだ。

イ　利用者数　46 人（うち年度初めの退所１名、長期欠席１名）

ウ　職員体制　２人

エ　活動報告

(ｱ)　工賃をテーマに仕事及びお金を学ぶ

働く喜びと工賃を結びつけられるよう、工賃支給日後の学習の時間には、工賃と同じ現金を用意して実践学習をした。毎月行っている旅行積立金のＡＴＭ操作が上手になった。また、引き出して旅行費用を支払う体験も６年目になり、窓口の人と一人でやり取りができ、事務所で支払う態度に自信ある雰囲気が感じられた。積立をしている全員に旅行費の引き出しの取組をしたいが、家族の判断にゆだねられているため実施なしの事もあり残念である。

ふぁんふぁーれ券を使った喫茶利用は、楽しみな取組の一つとして定着している。ふぁんふぁーれ券がもらえない出勤状況の人でも、家族の要望や了解のもと、頑張って働いている認めとして工賃支給日後の喫茶利用が増えている。

働いて得たお金を使って欲しい物を買う取組は、家族との相談で実施した。楽しみと満足感だけでなく、仕事への励みともなる外食や買い物体験については、本人の要望を元に、家庭と調整しながら進めたが、限られた人に留まっていた。

(ｲ)　得意な分野で自信をつける

日々の生活や仕事で褒められ認められることで自信につなげるために、本読み、パズル、ブロックの組み合わせ、手工芸、生け花、習字、母の日・父の日カード、はがきや手紙書きなどを取り組んでいる。完成の達成感とともに、良くできた、きれい、すごいなどと褒められることで満足感を得、さらにやる気になるような働きかけをした。他の職員に見せて回ったり貼り出したり飾ったりは大きな励みとなっている。他の人が作ったり褒められたりしているのを見て、取組の意欲につながっており、生け花や手工芸や大人の塗り絵など、取り組む人が増え定着している。特に今年度は「フラワーアレンジメント」をやりたいと言い、長さや配置などを本人任せにしても、自分で工夫する利用者が増えた。

また、昨年に続き４回目となったはあとふる祭りのゴミ箱作りでは、行事参加の意識も高まり、全員がスムーズに取り組んだ。

(ｳ)　個々のコミュニケーション方法の模索と確立を目指す

ａ　自分自身の思いを伝えられるように、話しやすい雰囲気を作り傾聴する姿勢で関わった。表現方法に個人差はあるが、学習時間が終わった後の笑顔、また次週への期待を込めたまなざしなどがあるが、それが言葉になってくれるとよい。

ｂ　相手の気持ちが今、嬉しいか？悲しいか？困っているか？を考えるため

に、新聞の物語を読んで感想を話し合ったり、絵カードを使ったりして関わりを深めた。難しい課題であり、本人がまず認められ充足感で満たされることが先かと考えるが、何とか継続している。

c　言葉で表現する事が追い付かずとも、学習時間に上着を着てきたことで外出の意志を表わしていると受け止める事ができ、様々な形で発信される気持ちを受け止められるよう関わった。

(ｴ)　心身の健康増進を図る

課題となる利用者に、月１回学習の時に体重を計り、健康への意識高揚を狙っているが、看護師との連携の下に進める内容とした。体重測定が励みとなっている人を除き、取組は難しくなっている。健康支援の位置づけで、イベント・展覧会や図書館などに行き、歩行時間を増やしている。３階のベランダでのボール投げ、ボール蹴りは、冬の間も体調に配慮しつつ、寒すぎない時は取り組むことができた。雨天時には、学習室や食堂内で軽くボール投げをすることもあった。3 階食堂内の歩行に取り組む利用者は、参加が少なくなり、足腰の不安があったので実施を控えた。また、椅子に座って、音楽に合わせて足踏みや腕・手の曲げ伸ばしをするリズム体操は、好評で大部分の利用者が取り組んだ。

(ｵ)　自立に向けて

どこで暮らしても自分の楽しみを身につけられるように、余暇の過ごし方（トランプ、かるたが好評）や、外出や買い物を視野に入れた個々に応じた支援プログラムを組んできた。買い物、ウインドショッピング、図書館利用、グループホームの学習などに、それぞれ興味を持って楽しみ取り組んでいる。殊に、図書館利用を希望する人が増えた。又、日常的に、あいさつや報告などができるよう場面作りをしているが、職員が率先してすることだと捉えている。職員があいさつすれば同じようにできる人や、それを繰り返すことで自発的にあいさつができる人が増えている。

第５　会議等

１　通常会議

⑴　食品グループ会議

年１２回の会議を開催し、グループでの情報共有などを行った。

⑵　生産グループ会議

年１２回の会議を開催し、グループでの情報共有などを行った。

⑶　行事会議

ア　活動内容　年３回の土曜開所及び年間行事の開催と運営

イ　活動報告

(ｱ)　部門の枠を超えたコミュニケーションについて

平成２９年度は「職員と利用者とのコミュニケーションの場作り」を達成目標とした。達成に向けた活動として「土曜開所、イベント等の企画」を実施した。今年度、土曜開所については、計画の段階から利用者参加を取り入れた。実績として、5 月（多摩動物公園）、8 月（八景島シーパラダイス）、12 月（ボーリング）を行った。

(ｲ) 社会生活力の向上について

平成２９年度は「経験を積み、社会生活力のスキルアップを図る」を達成目標とした。達成に向けた活動として「公共交通機関、公共施設の利用」を実施した。土曜開所、旅行等への参加により経験を積み重ねることができた。

(ｳ) マニュアルの整備について

平成２９年度は「①全実施イベントのマニュアルの作成②実施手順の検証」を達成目標とした。達成に向けた活動として「①実施後、速やかに作成②マニュアルの活用」としたが、①②ともに前年度の資料の参照、また前任者からの引き継ぎ等で企画が十分に遂行されマニュアルの作成に至らない事が生じた。

(ｴ) イベント等、企画の円滑な進行について

平成２９年度は「責任者、実務担当者との連携、協力体制」を達成目標とした。達成に向けた活動として「責任者、実務担当者との役割の明確化」とした。土曜開所３回/年と宿泊旅行については、行事会議の職員が担当し、他の行事を担当する職員の負担軽減に努めた。

(4) 工賃改善会議

ア 会議の目的

工賃月次での売上・材料費・経費・粗利・実際工賃・余剰金の数字の把握を通じ、利用者の工賃向上を目指す。

イ 活動報告

(ｱ) 工賃要綱による円滑な運営

(ｲ) 工賃評価方法の検討

(ｳ) 各部門職員の売上・経費・利益に対する数字の理解・把握を深め、売上意識を向上

(ｴ) 売上

平成２９年度売上金額は、17,541,283 円で、昨年対比は１０９．８%となり、1,579,366 円増となった。売上増の原因としては、多くの部門が昨年度対比で１００％を超えることができたことである。ただし、収支としては、マイナス約２７０万で、昨年度同様大幅にマイナスである。

年度	売上金額（昨年対比）
平成２５年度	22,896,408 円（ 95.5%）
平成２６年度	20,640,360 円（ 90.1%）
平成２７年度	19,322,567 円（ 93.6%）
平成２８年度	15,961,917 円（ 82.6%）
平成２９年度	17,541,283 円（109.8%）

(ｵ)　工賃支払

平成２９年度工賃支払金額は、6,278,115 円で、昨年対比は９３．１%となり、459,768 円減となった。退所した利用者が１人いたこと、昨年度と違い年度末調整手当がなかったことで、１人あたりの平均工賃額は減少した。

年度	工賃支払金額（昨年対比）
平成２５年度	6,147,785 円（101.7%）
平成２６年度	6,714,391 円（109.2%）
平成２７年度	6,251,007 円（ 93.1%）
平成２８年度	6,737,883 円（107.8%）
平成２９年度	6,278,115 円（ 93.1%）

２　年度会議等

⑴　ケース会議

例年と違って、１日で、話し合う必要のあるケースについて全体で会議を行った。

平成３０年１２月２２日（土）

⑵　施設連絡会

年３回の施設連絡会を実施した。

第１回　平成３０年　６月１９日（火）

第２回　平成３０年１０月　４日（木）

第３回　平成３１年　３月２２日（金）

３　外部団体への参画

⑴　調布市福祉作業所等連絡協議会

⑵　いっしょうふれあいネットワーク（第１小学校地区協議会）

⑶　ぴゅあネット（三鷹市障がい者施設等自主製品開発・販売ネットワーク事業）

第６　その他

１　年間行事等

⑴　年間行事

平成３０年　４月　２日（月）	入所式・出発式
６月　１日（金）	運動会

９月　７日（金）～８日（土）	１泊旅行
１１月　３日（土）	はあとふる祭
１２月１７日（月）	クリスマス会
平成３１年　１月　４日（金）	初詣
３月２９日（金）	納会

⑵　土曜開所

平成３０年　５月１９日（土）	多摩動物公園
８月１８日（土）	カラオケ
１２月８日（土）	ボウリング大会・散策

２　実習、見学及びボランティアの受入れ

⑴　利用実習

ア　実習生総数　８人（都立府中けやきの森学園８人）

イ　職員体制　実習生受入部門職員

ウ　活動報告

(ｱ)　各部門における実習生の受入れ

(ｲ)　実習生の通勤練習実施

実習生が事務所窓口に来所する。

(ｳ)　巡回訪問、見学の受入れ

(ｴ)　実習評価表作成（実習生受入担当部門職員が作成する）

(ｵ)　実習前、個別に面談を行う（参加者：教職員、家族、本人）

(ｶ)　面談記録作成

(ｷ)　実習後反省会を行う

参加者は実習生本人、その学校の担当教諭。施設側では受け入れた各部門の担当職員。また生産グループ（園芸、受注、工芸）と食品グループ（喫茶、パン、食品加工）の主任が同席する。

(ｸ)　現場実習謝礼金あり

(ｺ)　実習生受け入れ期間

a　平成２９年６月７日～８日

（都立府中けやきの森学園高等部２年生４名）

（受注４名）

b　平成２９年１０月１６日～２７日

（都立府中けやきの森学園高等部３年生２名）

（工芸１名、食品加工１名）

c　平成２９年１０月１７日～２８日

（都立府中けやきの森学園高等部３年生１名）

（工芸１名）

d　平成２９年１２月１１日～１３日
（都立府中けやきの森学園高等部２年生１名）
（受注１名）

⑵　支援実習

施設名等	目的	月日	実習部門	受入れ人数
三菱東京ＵＦＪ銀行	新任研修	5 月 22 日 5 月 24 日	受注　4	4
あすなろ福祉作業所	施設体験研修	7 月 10 日 11 日	受注　1	1
南六郷福祉園	施設体験研修	7 月 24 日 25 日	受注　1	1
（社福） 南風かすみの里	施設体験研修	7 月 31 日 8 月 1 日	受注　1	1
電気通信大学	介護等体験	8 月 20 日 ～24 日	受注　2	2
電気通信大学 日本大学	介護等体験	9 月 10 日 9 月 14 日	受注　2	2
電気通信大学 日本大学	介護等体験	10 月 15 日 ～19 日	受注　2	2
女子体育大学 日本大学	介護等体験	10 月 22 日 ～26 日	受注　2	2
電気通信大学	介護等体験	11 月 12 日 ～16 日	受注　2	2
慈恵医科大学		10 月 1 日 ～5 日	受注　2	2
			受入れ総数	１９

⑶　施設見学

月日	見学者	構成	人数
５月２９日（火）	けやきの森	保護者	1
７月　６日（金）	むさしの会	保護者	5
７月１７日（火）	七生特別支援学校	生徒・教員	２３
７月２０日（金）	綾瀬あかしあ園	利用者・職員	１５
７月２４日（火）	けやきの森	生徒・保護者	3
７月２７日（金）	けやきの森	生徒・保護者	４２
８月２３日（木）	ちょうふだぞう	職員・保護者	2
１０月２６日（金）	三鷹居住者	生徒・保護者	2
１１月　６日（火）	八王子居住者	保護者	3
１１月２０日（火）	けやきの森	保護者	3
１２月２５日（火）	七生特支	生徒・教員	2
２月　１日（火）	調布特別支援学校	生徒・教員	３０
		合　計	１３１

⑷　ボランティア

平成２９年度	工芸部門	フットケア	外出時	はあとふる祭	合計
４月	9	1	0	0	１０
５月	7	1	0	0	8
６月	8	0	0	0	8
７月	9	0	1	0	１０
８月	6	0	2	0	8
９月	１０	1	0	0	１１
１０月	7	0	0	0	7
１１月	5	0	0	３３	３８
１２月	7	0	1	0	8
１月	6	1	0	0	7
２月	4	1	0	0	5
３月	9	1	0	0	１０
合計	８７	6	4	３３	１３０

Ⅲ　トライアングル・フルハウス・ハミング
（居宅介護・重度訪問介護・行動援護・移動支援・短期入所・日中一時支援）

第１　総括

平成２９年４月、施設長が代わり、新しく職員も１名入職し、職員３人体制でスタートした。施設長は現職種の経験はなく、また、はあと・ふる・えりあの施設長も兼任するため、基本的には現場の支援対応や事務作業などは職員２名で対応した。新人職員はヘルパー経験はあるが業務は未経験であり、また主任は１月１７日から赴任したばかりで、未熟な状態から平成２９年度がスタートした。

そのため、年度前半は目標をやりこなすということは難しい状況であったので、植田評議員にアドバイザーを依頼し、業務全般にわたって詳しい説明や指導をいただいた。年度後半になると職員とヘルパーの連携もスムーズになり、サービスを利用される方も徐々に増え、平成２８年度の売上をわずかではあるが超える事が出来た。しかし、人件費が膨らんでしまい事業的にはマイナスの収支となってしまった。

第２　目標への取組状況

１　事業全体

⑴ 情報の共有を通しての支援の統一と、サービス提供の質の向上

各事業ともメール、ＦＡＸ及び郵送等で情報共有を行ってきた。ヘルパーミーティングは年３回開催したが、サービス提供の質を高めたとは言えない。ヘルパーミーティングの回数を増やし、情報の共有化をさらに進めていく必要がある。

⑵ ヘルパー体制の強化及びサービス提供の増加

ヘルパーについての基礎知識や苦情等に対応するため、研修会を兼ねたヘルパーミーティングを今までの回数より増やしていかなくてはならない。

また、サービス提供の増加を図ろうとしていたが、職員体制の影響で水曜日と金曜日のハミングが中止となり、サービス提供は減となった。

⑶ 職員業務の円滑化と、内容及び担当の明確化

前職員が退職する際、職員業務のマニュアルを作成したため、後の業務を順調にこなすことできた。

⑷ ケース記録の充実及び改善

記録をとっているが、それらの活用、ケース管理とは至っていない。整理の仕方を再検討していく必要がある。

２　トライアングル（居宅介護・重度訪問介護・行動援護・移動支援）

⑴ ガイドヘルプにおけるさらなる支援技術の向上

ガイドヘルプのみでのミーティングを検討していたが、開催には至っていない。

⑵ 支援計画シート作成計画の立案及びシステムの構築

支援計画シート作成の立案には至っていない。支援計画が必須化となる平成３１年３月までの経過措置の間、早い段階でシステムを構築していく必要がある。

３　フルハウス（短期入所）

⑴　短期入所居住空間の環境改善

清掃等の日常的な衛生管理は行えている。寝具の衛生管理は引き続き課題となっている。さらなる衛生管理を進める必要があり、安全衛生委員会とともに対応していく。

⑶ 余暇時間のさらなる充実

引き続き、カードゲームやＤＶＤなどの管理・拡充を計画的に実施していく必要があった。

⑷ 消防計画の作成、避難訓練の実施及び消防法改正に伴う環境整備

消防計画を作成したが、避難訓練に関しては未実施である。来年度中にヘルパー・利用者が参加する避難訓練を実施する予定である。

４　ハミング（日中一時支援）

⑴　各プログラム支援内容の再確認、支援体制・配置のさらなる明確化と、集団支援の充実

ある程度の支援統一を行ってきてはいるが、支援体制や配置の明確化をさらに進める必要がある。

⑵　土曜日・日曜日企画の検討

土曜日・日曜日などサービスを実施していない時間帯の活用を考えていたが、ヘルパー体制等により、実施できなかった。

⑶　平日ダブルプログラムの検討と、サービスニーズへの対応

前項と同じく、実施できなかった。

第３　事業報告

１　事業内容

⑴　トライアングル　居宅介護・行動援護・移動支援

⑵　フルハウス　　短期入所

⑶　ハミング　　日中一時支援

２　全事業登録利用者

平成３０年　３月３１日現在　６５名

３　登録ヘルパー

平成３０年　３月３１日現在　１８名

４　職員体制　職員３名

平成２９年　４月　１日　新施設長就任（兼任）

平成２９年　４月　１日　新規職員入職

５　サービス利用状況

職員体制の都合で水曜日と金曜日のハミングが中止となったことの影響によりサービス利用状況は減となった。

６　会議等

⑴　トライアングル・フルハウス・ハミング会議

月１回の定期会議を実施。情報共有、売上分析など検討、調整を行った。

⑵　ヘルパーミーティング

年３回開催した。

平成２９年　６月１４日（土）

平成２９年　９月　８日（金）

平成３０年　３月２１日（水）

７　年間売上

平成２９年度　２２,６４９,７７７円

前年度売上　　２１,７３０,８０６円

前年度比　　１０４．２％

Ⅳ　ケアホームほっとわん（共同生活援助）

第１　総括

開所７年目を迎え、平成２９年度も継続して利用者の障害特性を理解し日常生活の維持または向上を目指して支援に取り組んできた。生活の場として「安心」「安全」を提供する事と、障害特性及びそれぞれの個性に配慮した個別支援を行えるよう努め、個々の自立に向けたサポートを行った。また、今年度は経験を持つスタッフが常勤として入職し、スタッフ間でより情報の共有を図ることを意識した。利用者の日常とは違った変化に「気づき」支援ができるようにし情報のタイムラグを小さくすることや、研修等に参加してそれぞれのスタッフがスキルアップを目指す事で支援の個別対応の強化につなげた。

お出かけイベントは、アミューズメントパークなどへ出かけ経験を重ねる事や、施設内でパーティーを行う事で、仲間やスタッフとのコミュニケーション向上や余暇支援の強化を図った。

第２　目標への取組状況

１　利用者の安全・安心と、健全な生活の確保

「気づき」支援の実施により、利用者のニーズの把握に努め今年度も大きな事故等なく安定した生活を送ることができた。また、リスクマネジメント委員会や安全衛生委員会、虐待防止委員会に参加し、「ヒヤリ・ハット」や事故の検証をする事で再発防止や感染症などの対応を行った。

２　利用者の障害特性を踏まえた支援の確立

ことばかけ対応や文字を使った掲示対応など、一人ひとりの障害特性に合わせて個別の支援方法を行った。また、特性を理解し支援を行う事で生活向上を図り、個別の対応を進める事で生活習慣の向上につなげた。今後も障害特性に応じた支援強化に努めていきたい。

３　地域との連携

地域の町内自治会に加入しているが、イベント等への参加は出来なかった。週末は利用者それぞれの過ごし方がその都度異なるのでイベントへの参加は難しいが、状況に合わせて参加を検討していきたい。また、狛江市の通所部会の連絡会に参加し狛江市の福祉サービス事業者との連携及び情報の共有に努めた。

４　利用者家族との連携

外泊時の送り迎えの際、家族と顔を合わせる機会があり交流を深める事ができた。また、それに合わせてメールや電話等でこまめに連絡を取り最新の情報を共有した。本人と家族の希望にそえるよう外泊を調整し、配布された書類等もタイムラグが極力無いよう翌日に郵送をしたり電話での連絡を行った。月１回の報告書には写真とともに様子を伝え普段の生活が報告できるようにした。

５　利用者の健康維持及び促進

「気づき」支援を行う事で、いつもとは違った様子に気づき早期発見に努めた。また、感染症予防のために手洗い・うがいの声かけをし、安全衛生委員会に出席して職員の意識を高め健康維持に努めた。

６　災害対策の整備

懸案事項であったスプリンクラーと自動火災報知機を設置する工事を行い、消防署の点検も無事に終了することができた。その後、消防設備点検を年 2 回実施したが問題はなかった。また、避難訓練を年１回実施し利用者の安全配慮訓練を行った。

７　職員のスキルアップ

年２回の法人内研修の参加によりスキルアップを図った。合わせて、外部の研修にも参加した。スタッフが必ず外部研修に参加できるようスタッフ間で調整を行いたい。

８　外出イベントの実施

８月－よみうりランドイベント、１２月－温泉とほっとわん忘年会お食事パーティー、３月－ほっとわん平成２９年度お疲れ様会お食事パーティーの年３回のイベントを実施し余暇の強化につなげた。今後も利用者の希望に沿ったイベントの企画運営に努めたい。

第３　事業報告

１　事業内容

１　支援について

障害特性を理解した支援の確立を図った。個別対応の掲示や声かけによる日常動作のサポートを行うことで、「できる」を達成し一つ一つの動きの向上につなげた。

２　余暇活動

トライアングル、ハミングと連携をとり、外出支援や日中一時支援の管理をした。また近隣への買い物や、休日の昼食を作るなど、余暇の充実を図った。

３　事故防止

危険個所の排除、見守りにより大きな事故なく過ごすことができた。再発防止のために事故報告書やひやりはっと報告書の提出及び検証を行った。また、避難訓練を行い、災害時の事故防止、安全確保に努めた。

４　職員会議

月１回会議を行い、利用者状況と運営状況の情報共有を図った。

５　家族との連携

毎月の「月報告書」により、利用者の生活の様子を報告した。また、外泊などの調整に対応し、利用者と家族の交流促進を行った。

６　食事の提供

タニタ食堂や女子栄養大学等のレシピを使用し、１食５００～６５０Cal のバラン

スのとれたヘルシーで満足感のあるメニューを提供に努めた。月１回のスペシャルメニューは個々の利用者のリクエストメニューに応じ提供した。

７　地域連携

狛江市障害福祉サービス等連絡会へ参加し、地域の福祉施設との連携強化に努めた。

８　外出イベントの実施

８月、１２月、３月の年３回、外出イベントを実施した。利用者の希望を聞いて意見をまとめ企画することが出来た。

２　利用者数

５名

３　職員体制

４名（兼務職員１名含む）　非常勤２名

平成２９年７月１１日　内野隆安職員入職。

Ⅴ　プラントシード（相談支援事業）

第１　総括

平成２９年度は、はあと・ふる・えりあの利用者１名と新規に契約を交わしたが、通所先をはあと・ふる・えりあから変更した１名がプラントシードとの契約も変更したため契約者数に変動はなかった。

９月に調布市から、受給者証の更新を今までの９月一斉更新から誕生月更新に変更すると通達があった。実務は、平成３０年度の６月以降の誕生月の方から新しいモニタリング周期に変更するので、平成２９年度の業務に影響はなかったが、今後、月によって人数のばらつきが生じるため検討課題として残っている。

業務においては、家庭で主たる援助者であった母親を急に亡くした利用者の緊急時対応や新たなサービス利用について、随時対応を行った。また、昨年度と同様、はあと・ふる・えりあを長期に休んでいる利用者の現状把握を行い、市のケースワーカーやはあと・ふる・えりあの生活支援員と情報を共有し、ＱＯＬの改善等を図れるよう対応に努めた。利用者や家族の状況、要望に変化があった時は必要に応じて面談を行い、サービス等利用計画案を作成した。特に、年齢による変化には、本人が無理なく、自分らしい生活の維持や充実を図れるよう現状のサービスの見直しを行った。

職員１名で事業に携わっているので、情報収集や専門員としての質の向上を図るため、平成２９年度も調布市のサービスのあり方検討会や、府中市や三鷹市の指定特定相談支援事業所連絡会へ努めて参加した。

第２　目標への取組状況

１　適切な計画相談支援の提供

現在、『サービス等利用計画』をセルフで作成している利用者の中で、プラントシードでの計画作成を希望されている方がいる。平成２９年度中に契約を結ぶことを目標にしていたが未達成のままになってしまった。

定期的なモニタリングや計画案の作成以外にも、利用者の状況に応じて計画案の作成等を行った。

２　計画相談の質の向上

モニタリングでは、地域での生活をよりよい自己実現の場にできるよう、本人や家族の希望及びニーズの把握に努めた。また、相談の連絡を受けた時はモニタリング月に限らず、随時聞き取りを行った。平成２９年度は、緊急事案としてグループホーム利用の相談があり、体験型グループホームの利用について担当のケースワーカーと話し合いをしたり、利用可能なグループホームの選定、見学の同行等、事業の収入にはつながらないが、包括的な支援を実現できるよう努めた。

３　サービス提供事業者等とのネットワークの形成

継続して、調布市のサービスのあり方検討会や府中市と三鷹市の指定特定相談支

援事業所連絡会に参加した。情報の収集や共有、行政等とのつながりの他、課題がある事案を相談できる場として活用できた。

４　支援力向上と現任者研修の受講

平成２８年度、受講を見送った相談支援従事者現任研修を受講した。

５　地域支援力向上のためのサービスの提言

新たなサービスの提案には至らなかった。

平成２９年度社会福祉法人新の会事業報告

発行日　平成３０年６月１日
発　行　社会福祉法人新の会
住　所　〒１８２-００２６
東京都調布市小島町１－２２－７
TEL　０４２-４９０-８６２５
FAX　０４２-４９０-８６２４
E-mail　aratanokai@ba2.so-net.ne.jp